

自治会まちづくりミーティング（要旨）

1. 自治会等の名称 鶴沼第3・緑苑自治会連合会
2. 日 時 平成30年9月6日（木） 19時00分～20時40分
3. 場 所 鶴沼福祉センター
4. 出席者 自治会長 34名、市長、副市長、企画政策課長、道路課長

〈内容〉

○連合会長のあいさつ

○市長のあいさつ

○テーマ概要

テーマ①：緑苑 UR 団地の再開発

テーマ②：遊歩道を延長し安全と景観に配慮した住みよい街に

テーマ③：鶴沼周辺観光 PR の促進

○提言による懇談

テーマ①：緑苑 UR 団地の再開発

〈緑苑東第3自治会長〉

昨年度から UR 緑苑東団地の集約事業が始まりましたが、6年ぐらい先には大規模な集約事業が行われます。この時に、ただ棟数を減らして終わりではなく、これを機会に若者を取り込むために、例えば安価な住宅を提供し、子育てしやすい生活環境を整えることや、若者たちが住んでみたいと思えるものを考え作り上げて行くことにより、今後の世代交代が、より良くなっていくのではないのでしょうか。

〈市長〉

UR 緑苑東団地にお住いの皆様には、住み慣れた地域で安心して生活を送っていただけるよう幅広い世代に向けた団地の魅力向上により、居住者の増加や地域の活性化に繋がる施策の必要性を強く認識しています。そこで、UR 機構と直接面談してきました副市長より説明させていただきます。

〈副市長〉

UR 団地は山際にありますが、どんどん人が減ってきてしまう入居者が少なくなってくると、その影響が団地の方にも広がってきてしまうことは、市としては一番まちづくりとしては、やってはいけないことだと考えており、何とかこの UR を再生したいという思いでございました。

UR は全国に 73 万戸の住宅を持っており、その 73 万戸について UR の考えは平成 19 年から平成 30 年までの計画をもっており、その中で、緑苑東団地は、どういう位置付けかと言いますと、平成 30 年度まではストック計画という位置付けでした。ストック計画とは既存の建物を従来どおり適切な維持管理をしていくという定義であります。このストック計画を何とかして平成 30 年に計画を上げ 31 年から新しい計画を UR が作りますので、新しい計画を作るときには、何としてでもストック計画を団地再生の方に位置付けて少しでも手を入れてもらう、あるいは集

約してもらって前に進めたいというのが市の願いでした。

この位置付けを変更していただくために名古屋市にあります中部 UR に行かせていただいたり、UR から市役所に来てもらったりして、粘り強くお話をいたしました。

また、昨年の6月に緑苑自治会の方から要望書をいただきまして、その内容を市としては UR にお伝えさせていただいて、地元の皆さんも再生とか施設の誘致であるとか、そういうことを強くお伝えさせていただいたところ、昨年の夏に UR が皆さんの所にご説明に来たと思いますが2年前倒して31年まで待たずに、2年前倒してストック計画から団地再生に位置付けましょうというお話になりました。

そして昨年の9月23日から緑苑東団地の第1再生勉強会の1回目をやらせていただき、その後12月と1月の3回開催し、3月18日に着手説明会を団地の方々にさせていただきました。

着手説明会とは本格的に団地再生に入りますよという説明会であり、その説明会に多くの方がご出席されたと聞いています。その中で第1期工事として本年を含む3年間で一番南側にある3棟をまずは集約しようということになっています。こちらにお住まいの方は、例えば、UR 団地の中の別の所にお住まいになっていただければ引越し代は UR の方が持ち、いろんな面倒を見させていただきますということをお話しさせていただきました。

この第1工事が始まりまして、ここが仮に空けば、例えば民間への売却とか、更地にして土地活用するとか色々な手当てができますので、まずはお住まいの方にはご不便をおかけしますが引越しをしていただいて、しっかり費用は UR で持ちますというご説明をさせていただきました。

その後、第2期の時期は未だ分かりませんが、いずれこの第2期ということが、またお住まいの方は引越しをしていただくということで、こちらの土地も民間に売却でありますとか、あるいは開けていくということになっているところでもあります。まさに、ご提案のありました所ですが、無くしてそのままではいけませんので、その後の利活用というものを市としてもしっかり UR と連携しながら考えていくというようになっています。

UR も例えば、日本ラインうぬまの森とか、各務原アルプスのハイキングコースなど、市の財産が沢山ある若者に人気のスポットでありますので、そうした豊かな自然を活用できるような、例えば、アウトドア系の企業などへの声かけをしながら対応していくということを UR から頂いておりますので、市としても一生懸命頑張らせていただきたいと思います。

ご提案のありました若者を取り込むための方策、例えば安価な住宅の提供でありますとか、子育てしやすい生活環境の整備、こちらにつきましては引き続き地域の皆様からのご意見として UR へしっかりと伝えながら話を進めさせていただきます。

〈鶴沼台第2自治会長〉

再生ということで UR からお話があるということですが、3棟を第1期でやるということですが、もう既に全然入っていないんです。10年ぐらい前に一度、再生のために部屋をぶち抜いて一部屋ではなく、二部屋を作ったことがあります。成果はありましたか。

再生でも、どのようにするかということをよく住民の方と相談していただき、ただ作るだけでは人は入ってこないと思います。そこで再生するには、どうしたら良いかを考えないと、ただ UR が作るよといっても、本当に集まるかということで、地元の皆さんが考えるような、ここだったら住みやすいというものを参考にさせていただいて再生をしていただきたいと思います。

〈副市長〉

今お話しいただいたことをURに伝えようと思いますが、URは再生というのは、もう一度同じような住宅やアパートを作るといふようなことを考えているわけではなく、例えば、高齢者施設であるとか、ショッピングモールなど人が住むだけではなく人を呼び込めるような、あるいは、そこにお住いの方が快適に暮らせるように、それぞれの地域で何が一番マッチするのか、一つ言われるのが若者のハイキングコースであるとか人気のスポットがありますので、そういったものを活用できるような例えばアウトドア関係の企業でありますとか、そういった所へも声掛けするという話をしていましたので、これから検討に入るところだと思います。

また同じように人が住む住宅を作るといふことよりも、違う施設を呼び込んで快適に暮らせるような仕組みを作っていく、というようにことがURの一つのコンセプトだと思いますので、市もしっかり側面支援していきながら、URと協力し行っていきますのでよろしくお願いします。

テーマ②：遊歩道を延長し安全と景観に配慮した住みよい街に

〈山崎第1自治会長〉

遊歩道を延長して安全と景観に配慮した住みよい街にさせていただきたい思いで提言させていただきました。今までは、美濃加茂市方面の方は国道21号線を通して県道27号線に入って犬山市へ向かうという経路でしたが、数年前に桜木町という大きな団地と大きな道路ができました。

そうしますと、美濃加茂市方面から来た方は桜木町内の近道を通して新鵜沼駅の方へ行け、更には踏切を渡って犬山市へ行けるため、かなり便利になり、この道路の通行量が非常に増えました。それが桜木町の皆さんの大きな懸念であり、鵜沼第三小学校に通う約100人の児童が、車が通るところを歩きながら山崎町を通過して通学しますので、危険な状況であります。

皆さんもご存じのように、犬山城の反対（各務原市側）はお城が非常に綺麗で、桜の時期になると益々綺麗です。そうしますと、古市場町の方は公園や遊歩道があって非常に良いのですが、山崎町と桜木町は、何か寂しく、通学路も色々問題があるということです。結論から言いますと、遊歩道と公園を作っていただくことによって、良い街になるのではと思っています。

桜木町には遊歩道がありますが、途中で止まってしまいます。あとは、右側の方へ行って通学路になりますが、車が2台通れる場所もありますが途中1台しか難しい状態になっています。

山崎町の方でも同じような状態で非常に狭く、お子さんを持つ親御さんは非常に心配されている状況にあります。

遊歩道はどうかと思ってみますと、綺麗な木曾川があるにもかかわらず残念ながら雑草と雑木という状況ですので、もう少し綺麗にすると眺めも更に良くなるのではと思います。また、山崎町9丁目から下へ降りたところですが、やはり綺麗で花火が打ち上がる場所です。もう少し行くと犬山城が見え、せっかくのところ綺麗な状態ではないということが言えると思います。

この犬山橋から南の方は、綺麗な遊歩道があり、更に公園にもなっており、車が全然通らない所ですので安心して散策を楽しむことができるようになっています。そう言った意味で遊歩道を作っていただければ安全な通学路になり、公園にいただければ散歩していても楽しいところになるのではと提言させていただきました。

〈市長〉

平成26年度に桜木町地内において、日本ラインの美しい景観が楽しめる木曾川沿いの遊歩道「宝積寺南4号公園」を整備し、平成28年度にはライン大橋から犬山橋までの約1.2キロの区

間に遊歩道を整備しました。また、鶴沼駅東部区画整備事業により、鶴沼南町から山崎町の木曾川沿いの狭い道路の拡幅と併せて、歩道の整備を行いました。

さらに、城山地区周辺は国の重要文化財「名勝木曾川」に指定されており、各務原市にとって景観的にも重要な地区であります。こうしたことを踏まえ、城山周辺は木曾川河畔地区として、桜木町は木曾川河畔上流地区として、木曾川の美しい景観に配慮した風景づくりを進める重点風景地区としてそれぞれ指定されています。

城山については、歴史的資源として保全を図りながら、木曾川の雄大な自然を活かした憩いの場となるような整備を検討しています。

宝積寺4号公園から城山までを繋ぐ木曾川沿いの遊歩道整備についても、河川管理者である国との協議が必要となる上、地形的な制約もありますが、歴史・景観拠点のネットワーク化が図れるため、引き続き地域の皆様のご意見を伺いながら検討していきます。

通学路については、できる限り道路幅を広げよう、そして歩行者専用のようなカラーリングをしようと言うことで道路のカラー舗装をさせていただいたところでもあります。今後も警察等々と連携をしながら、また、皆様方からの色々なアイデアをお聞きし、「スピードを落とせ」というような看板などが設置できるようなところがありましたら対応させていただいて、ここから通学する児童の安全・安心の確保に今後も努めていきたいと思っています。

〈山崎第3自治会長〉

桜木町から歩いて山崎街道踏切を渡る児童が多数おります。車専用の踏切になっていますので、横に歩行者用の踏切を設けていただくことはあまり難しいことではないと思います。踏切の信号機などもあると思います。この場所は、見守り隊の方が児童を渡すのに危険なため何とかして欲しいと言われていました。

そして鶴沼駅の方へ行く場合に右側にしか歩道がありませんので、どこかで渡らせなければならぬのですが、歩道が1カ所もないので敷地の提供などが必要になるということは聞いていますが、横断歩道も無いところで踏切を渡った直ぐ後のところで右側に渡しておりますが、その辺も併せて何とかお願いしたいと思います。

〈道路課長〉

各務原市は東西にJRと名鉄が走っていて非常に多くの駅があります。当然、踏切の数も多くあります。踏切がなかなか拡幅できない理由としては、JRや名鉄は踏切を拡幅するためのルールというものがある国と合わせて決められています。車道にセンターラインが付いている場合なら歩道だけを設置することは可能です。ただし、その際には前後の道路も歩道が付いていることが一つの前提です。今回の場合、踏切は未だセンターラインが付いていませんので、その場合には踏切を拡幅することに合わせてどこかの踏切を廃止してくださいということが条件となります。踏切を廃止することは通常の生活に大変支障をきたす場合もあり、非常に慎重に検討しなければなりません。

歩道のネットワークを確保していきつつ踏切をより通りやすくすることは、非常に大切な課題で、市としても取り組んでいるところでありますが、今後、JRや名鉄と協議を進めながら、もう少し柔軟なやり方で拡幅できないか検討していきたいと思っています。

また、鶴沼駅の方へ向かう北側にしか歩道が無いというお話で、当然これも南側の部分にも歩道があるのは理想ではありますが、どうしても、その道路部分に必要な用地を提供していただく

なければなりません。渡る必要があるのはごもっともですので、渡りやすい場所というところを確保して公安委員会と協議のうえ横断歩道の設置に向けての取り組みを行ってまいりますので、ここが良いというポイントがありましたら地元のご意見として自治会のご要望をいただいてから順次手続きを進めていきたいと思っております。

〈山崎第3自治会長〉

桜木町をはじめ山崎町の新鵜沼駅の東に大きな団地も一緒にできており、お子さんがどんどん増えていますが、はっきり言ってやれないということですか。何かあってからうんぬんということでは遅いと思っておりますので、何か迂回する方法とか、そういったことは何も考えていないということですか。

〈道路課長〉

桜木町ができ世帯が増えていくということは、市にとっては地域の活性化に繋がりますので非常に喜ばしいと思っております。その上で、既存の道路の構造というものが物理的に拡張できれば一番良いのですが、その場合すでに土地利用がされているという実態を考えると、拡張というのは難しいものがあります。

例えば、それによって立退きとかということもありえます。実現可能なものとして、何ができるのかということをお考えすると、やはり既存の道路の大きさを変えるのではなく、交通規制に頼らざるを得ないということが我々の考えです。ただし、規制というものが例えば、時間帯規制とすると、当然のことですが、中に住んでいる方も規制の対象者となりますので、お住いの皆様方の総意で規制を受け入れても良いというような内容で取りまとまると、規制の可能性が高まると思っております。

ですので、行政でできることは行政の責任において行いますが、そこにお住いの住民の方々についても、何を選択すべきかということ、しっかりとお考えいただきまして、その中でできることはやっていくと、できることを見つけていくということが必要なのかと考えます。

テーマ③：鵜沼周辺観光 PR の促進

〈新鵜沼台第3自治会長〉

鵜沼周辺には、観光スポットが沢山あり、それらを PR して沢山の観光客が訪れるような街にできればと思います。例えば、木曽川景観や鵜沼宿、貞照寺、うぬまの森、他にも沢山観光になる所があります。そこで、どのように PR するかですが、一番良いのはイベントの開催かと思っております。イベントの開催として鵜沼宿は盛大に行っていますので、その時に沢山の人が訪れたりします。そうした風景を見ると観光地は賑やかでいいなと思っております。

そうした観光スポットが沢山あるので、散策コースの設定を考えてみました。例として、鵜沼駅をスタートして、木曽川沿い→鵜沼宿→うぬまの森→うとう峠→貞照寺→木曽川沿いといったコースです。木曽川沿いで最近知ったのですが、すごく綺麗な道で犬山城が見えて素晴らしい景観です。また、うぬまの森は近所の方が沢山歩いています。その先には、旧中山道のうとう峠や貞照寺と有名な所があります。

これらを皆さんに分かっていただくには、どうすればよいかということを考えてみました。まず目的地を分かり易くするため、案内板の増設ということをお考えしました。今も案内板はありますが、所々のポイントにしかなく、初めて訪れた方には、目的地をすべて網羅するには案内板が少

ないのではないかと考えました。

そして、歩いて楽しい道、先程の散策コースですが普通の道を回るイメージが多いのですが、そうではなく桜木町の遊歩道とか木曾川沿いの遊歩道の様に観光向けの遊歩道ができればいいということで提言させていただきます。

また、安全に楽しめるということですが、うとう峠などを行くと当然山道なので仕方がないと思いますが、雨が降った後だと土砂が多少崩れてきて道が非常に危険で転びやすい、下が柔らかい状態になっていますので、自然観を失わない程度に整備してはと思います。

あと、「イノシシ出没の恐れあり」の看板が立っており、これも仕方がないかと思いますが、野生動物やマムシなど、こういった危険性を取り除くような対策を行っていただきたいと思います。

そして施設の充実として、トイレの増設ですが、観光で散策していると、どうしてもトイレが少ないと困ると思いますので、各ポイントに公共トイレの増設をお願いしたいと思います。

最後に駐車場の新設です。すでに鵜沼宿やうぬまの森などは駐車場がありますが、鵜沼南町は近所の方が来るにはちょうど良いかもわかりませんが、ここは非常に景色がよいところです。車もギリギリ入ってこれそうな道がありますので、そこを整備して5台ぐらいの駐車場ができればと思います。

〈市長〉

鵜沼宿では、祭りを秋と春の2回開催しており、年々認知度が上がってきたことと、この中山道鵜沼宿にお住いの方々が主にやっただいておられますので、そうした方々のPRであったり、市観光協会等もPRに努めていますので、年々、内容も充実してきており来場者も増えつつある状況であります。

平成25年度から28年度にかけて鵜沼南町の木曾川右岸や大安寺川沿いの遊歩道を整備してまいりました。同時に、案内板を5カ所、誘導板を19カ所、そして表示板を12カ所に設置して以降、散策やウォーキングをされる方々、あるいは来訪者などが多くなってきている傾向としてあるのではと思っています。また、犬山城からも歩いてツインブリッジを渡って見に来ていただいている方も多くなってきているという状況です。

このほかに、鵜沼宿ボランティアガイドの会が作成した史跡巡りウォークマップがあり、ウォーキングコースを21コース、その中でも鵜沼地区では10コース、約半分が鵜沼地区のコースで設置をしていただいております。ご提言のコースも鵜沼地区の自然や歴史、景観などの要素がバランスよく含まれているかと思いました。

史跡巡りウォークマップのほかにハイキングコースマップもありますので、ご自身で楽しめるコースを考えていただくのも一つですが、皆様方に今後もこういったコースがあることも周知をしていきたいと思います。

そこで、観光協会にて鵜沼地区の資源めぐりを11月頃に予定していただいております。観光に関わる会員の視点で鵜沼地区の資源の開発等々と、そういったことの中からブラッシュアップもしていくというような内容となっています。その中には鵜沼宿の町屋館や脇本陣、そして貞照寺や国の重要文化財に指定された萬松園も含めて、この地域の更なる観光振興について考えていきたいと思っています。

ご提言を頂いた遊歩道の整備等々で、案内板については、もう少し細かにとのお話がありましたので、看板を一つ設置させていただきたいと思っています。

ただ、駐車場については、先程、5台程度をとのお話しでしたが、市が色々と調査、あるいは実数として握っている数からしますとウォーキングをされる方というのは駐車場が若干遠くても歩いて来られるよ、というデータもありますので、鵜沼駅にはコインパーキングがありますし、ちょっと西に行きますと、市民プールの駐車場もありますので、そちらから遊歩道を歩いていただけるような促しができるようなことも検討していきたいと思っています。

そしてトイレについては、犬山城の真反対側ぐらいに、鵜沼古市場町の川沿いに一つトイレを設置しています。また新鵜沼駅や鵜沼駅のトイレを利用していただけの所がありますので、これ以上の増設というよりは、不快感が無いように綺麗に維持管理をしていきたいと思っています。

そして、イノシシ等の獣害対策ですが、ここ近年、イノシシやサルが出るということが多くなってきています。イノシシ等については、市の猟友会のご協力をいただき、通報を受けましたら、すぐに猟友会に向かっていただき捕獲の檻などを設置していただいています。

獣害の被害についても、今後もしっかりとした対応をしていかなければと思っていますので、これからも猟友会の皆さんにお力沿いをいただくとともに、地域にお住いの方々しか目撃情報は分かりませんので、発見された場合には、その都度、速やかに連絡をいただきたいと思います。

〈鵜沼台第2自治会長〉

観光については、各務原市はかなり分散しているので、例えば、愛知県や犬山市と連携するなど模索しないと各務原市や鵜沼地区だけでの観光PRは難しいと思います。

例えば、犬山市のマラソンは、市民マラソンと競技的なものの2回行われます。各務原市でも同様なことはできませんか、お金が掛かるものなのか。その参加者というのは圧倒的に多いと思います。例えば、テレビで流れたり、新聞で報道されて、このような施設を回っているよと言うのがあれば、観光PRになるのではと思います。

市民が楽しむだけのハイキングコースではダメだと思います。市民が健康のためのウォーキング道路であれば、今のままで十分だと思っています。

例えば、秋の観光客にも来ていただいて、ある程度、各務原市にも利益が落ちるように犬山市と連携し、もっと対岸としてこんな所がありますよというのをタイアップしていただくようなことを話し合っていないと難しいのではと思います。

〈市長〉

市民の方々にはもちろん楽しんでいただきながら、その地域の資源というものを、また再認識をしていただくというのは、非常に重要かと思っています。

犬山市とも色々な連携を取りながら以前ですと、犬山市と各務原市、そして坂祝町、可児市、美濃加茂市とで日本ライン共和国を作っていましたが、やはり日本ライン共和国になりますと、ちょっと広域的すぎるということで活動が停滞しています。

やはりお互いが一人勝ちするということではなくお互いがお互い様ということで一緒になって協力して走り抜けていこうということですので、犬山市とも連携を深めながら、そして今PRについても羽島市長にも各務原市を非常に気にかけていただいております、羽島駅のホームにも各務原市のPRチラシを置かせていただくなど、まさに市外へも色々なPRに努めて行くことが必要かと思っています。

今お話しされたように、犬山市であればマラソンは2回、各務原市は年1回しかありませんが、昨年度は航空自衛隊の滑走路を走らせていただくシティマラソンを行ったりと、色々なアイデ

アを持って観光、あるいはイベント等々に努めていきたいと思っています。

○行政の説明

- ・その先、その次へ。GO！NEXT
- ・鶴沼東町バイパスの進捗状況について

○連合会長からまとめのことば

○市長からまとめのことば